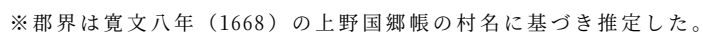


群馬県立女子大学 北川 和秀



古代の上野国

日の暮ぐれに碓氷うすひの山を越ゆる日は夫せなのが袖もさやに振らしつ

碓氷の山をあなたが越える日は、あなたも袖をはつきりとお振りになりました。

上毛野安蘇の真麻群かき抱き寝れど飽かぬを何どか吾がせむ

上野国の安蘇の麻の束を抱きかかえるように、あなたを抱き締めて寝ても、それでもなお満足できない気持をいつたい私はどうしたらいいのでしょうか。

多胡たごの嶺ねに寄綱よせつな延へて寄すれどもあにくやしづしその顔よきに

多胡の峰に引き綱を掛けて引き寄せるように、頑張って言ひ寄つてみたけれど、ああ、憎らしいよ、水底に沈んでびくともしない石のようなやつめ。（ちつとも靡かないでさ。）いくら顔が美しいからって。

利根川の川瀬も知らず直ただ渡り波にあふのす会へる君かも

利根川の浅瀬がどこなのかも知えずに、やみくもに渡つて波を受けてしまったように、ばつたりと出会つたあなたです。

上毛野伊香保の沼に植ゑ小水葱こなぎかく恋ひむとや種求めけむ

上野国の伊香保の沼に植えている小水葱こなぎではないけれど、私はこんなに恋に苦
しもうとして、わざわざ種（原因）を求めたのだったかなあ。

上毛野伊奈良いならの沼の大藺草外おほゐぐさよそに見しよは今こそ益まされ

上野国の伊奈良の沼に生えている（まだ刈り取る前の）大藺草と同じように、あなたのことを傍らから見ていただけの頃よりも、恋人同士になった今の方が恋心は増していますものを。

上毛野佐野田さのだの苗のむら苗に事は定めつ今はいかにせも

上野国の佐野のたんぼの苗を使った占いで結婚を決めました。今さらどうにか
できましようか。(できないでしょう。)

上毛野佐野の舟橋取り放し親は離くれど吾は離るがへ
上野国の佐野の舟橋をばらばらにしてしまうように、親は二人を引き離しますけれど、私はあなたと離れたりしませんよ。

伊香保嶺に雷な鳴りそね吾が上には故はなけども子らによりてそ
伊香保の峰に雷よ鳴ってくれますな。私にとっては別にどうということはないのですが、あの娘が怖がるものでね。

上毛野伊香保の嶺ろに降る雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり
上野国の伊香保の峰に降る「雪」ではありませんが、たやすく「行き」過ぎることができない、あなたの家のあたりよ。

子持山若鶏冠木の黄葉つまで寝もと吾は思ふ汝は何どか思ふ
子持山の若いカエデの葉が秋になって色づくまで、あなたと共寝をしたいと私は思います。あなたは どう思います？

左和多里の手児にい行き逢ひ赤駒が足掻きを速み言問はず来ぬ
左和多里の乙女に出逢ったけれど、私が乗る赤毛の馬の歩みが速いので、言葉を交わさないまま来てしまいました。

難波道を行きて来までと吾妹子が着けし紐が緒絶えにけるかも
右の一首は、助 丁上毛野牛甘のなり。

わが妹子がしぬひにせよと着けし紐糸になるとも吾は解かじとよ
右の一首は、朝倉益人のなり。

わが家ろに行かも人もが草枕旅は苦しと告げ遣らまくも
右の一首は、大伴部節麻呂のなり。

ひな曇り碓日の坂を越えしだに妹が恋しく忘らえぬかも
右の一首は、他田部子磐前のなり。
二月二十三日に、上野国の防人 部領使 大 目正六位下上毛野君駿河が進れる歌の数は十二首なり。但し拙劣なる歌のみは取り載せず。

◎参考

① 日本武尊の日はく、「蝦夷の凶しき首、咸に其の辜に伏ひぬ。唯信濃国・越国のみ、頗未だ化に従はず」とのたまふ。則ち甲斐より北、武蔵・上野を転歴りて、西碓日坂に逮ります。時に日本武尊、毎に弟橘媛を顧びたまふ情有します。故、碓日嶺に登りて、東南を望りて三たび歎きて曰はく、「吾孀はや」とのたまふ。故因りて山の東の諸国を号けて、吾孀国と曰ふ。へ日本書紀景行四〇年は歳

② 悉荒ぶる蝦夷等を言向け、亦、山河の荒ぶる神等を平和して、還り上り幸す時、足柄の坂本に到り、御糧食す処に、其の坂の神白き鹿に化りて来立ちぬ。尔して、即ち其の咋ひ遺したまへる蒜の片端以ちて待ち打ちたまへば、其の目に中りて乃ち打ち殺したまひき。故、其の坂に登り立ち、三たび歎かして、「あづまはや」と詔云らしき。故、其の国を号けて阿豆麻と謂ふ。

へ古事記中・景行

③ 太政官奏すらく、「武蔵国は山道に属ると雖も、兼ねて海道を承けたり。公使繁多くして祇供堪へ難し。その東山の駅路は上野国新田駅より下野国足利駅に達る。此れ便道なり。而るに枉りて上野国邑楽郡より五箇駅を経て武蔵国に到り、事畢りて去る日に、また同じき道を取りて下野国に向ふ。今東海道は、相模国夷参駅より下総国に達るまで、その間四駅にして往還便ち近し。而して此を去り彼に就くこと、損害極めて多し。臣ら商量するに、東山道を改めて東海道に属らば、公私所を得て、人馬息ふこと有らむ」とまうす。奏するに可としたまふ。へ続日本紀宝龜二・一〇・二七

◎万葉集卷十四（東歌）の配列

国名判明	雑歌 5	上総	1首	} 東海道
		下総	1首	
		常陸	2首	
	相聞歌 7 6	信濃	1首	} 東山道
		遠江	2首	
		駿河	5首	
		伊豆	1首	} 東海道
		相模	1 2首	
		武蔵	9首	
		上総	2首	
		下総	4首	
		常陸	1 0首	} 東山道
信濃		4首		
上野	2 2首			
9 0	譬喩歌 9	下野	2首	} 東山道
		陸奥	3首	
		遠江	1首	} 東海道
		駿河	1首	
		相模	3首	} 東山道
上野	3首			
国名不明 1 4 0	雑歌 相聞歌 防人歌 譬喩歌 挽歌	陸奥	1首	←ここにも <u>上野国</u> の歌とおぼしきものあり
		1 7首		
		1 1 2首		
		5首		
		5首		
合計		2 3 0首		

◎万葉集卷二十・防人歌

①天平勝宝七歳乙未二月、相替りて筑紫に遣はさるる諸国の防人等の歌

遠江国	7首	1 8首	} 8 4首 / 1 6 6首
相模国	3首	8首	
駿河国	1 0首	2 0首	
上総国	1 3首	1 9首	
常陸国	1 0首	1 7首	
下野国	1 1首	1 8首	
下総国	1 1首	2 2首	
信濃国	3首	1 2首	
上野国	4首	1 2首	
武蔵国	1 2首	2 0首	

②昔年防人…………… 8首
合計 9 2首

東国地図
(国名の下に数字は
東歌+防人歌の数)

